令和８年松本市議会第３回臨時会
市　長　提　案　説　明
[8.11.2(月)　10:00]

本日、令和８年松本市議会第３回臨時会を招集しましたところ、議員の皆様にご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。
提出議案の説明に先立ち、所信を述べさせていただきます。

連日、不正アクセスによる個人情報の漏えい事案が大きく報道されています。先月末には、世界のウェブサイトのおよそ７割で使用されている仕組みに重大な欠陥が発見され、様々なサービスが一時停止を余儀なくされました。
松本市でも、防災情報のメール配信「松本安心ネット」を委託するシステムの運営会社で、不正アクセスが確認されました。メールアドレスなどの個人情報が漏えいした可能性があるとの連絡を受けたことから、広く迅速な注意喚起を行いました。同じく、先月末のウェブサイトの脆弱(ぜいじゃく)性の問題についても、対象となる仕組みを利用しているシステムの緊急メンテナンスを実施しました。
こうした事案の背景には、ＡＩの急速な進化による、手口の高度化や対象の無差別化があるとされています。残念ながら、現時点で不正アクセスを完全に防ぐことはできません。したがって、自然災害と同様に、リスクを最小化し、有事に速やかに対応できる体制を構築することが重要だと考えています。
自治体で扱う情報システムは、基本的にインターネットと切り離されていることから、直接こうした不正アクセスの対象になる可能性は極めて低いとされていますが、市民の皆さんの個人情報を預かる者として、全職員が常に危機管理意識を持ち、より一層の情報セキュリティ対策に努めてまいります。
あわせて、市民の皆さんには、不審なメールやリンクは開かない、パスワードはできるだけ長く複雑なものにする、といった基本的な対策を徹底していただくことを、改めてお願いいたします。

令和９年度予算編成の基本方針について申し上げます。
日本経済は、およそ３０年続いたデフレを脱却し、値上げ・賃上げ・利上げという「３つの上げ」に象徴される、インフレの局面を迎えています。
松本市としても、一連の変化を的確に捉え、新たな価値の創造につながる事業や政策に積極的に投資することで、賃金と物価がともに上

昇する好循環を地域経済に定着させていく必要があります。
　インフレ経済の下では、税収の増加が見込まれる一方で、行政に関わるコストも上昇するため、判断の先送りは実質的な負担増や機会の損失につながります。時代の動きを先取りし、これまで以上に判断・決定・実行のスピードを上げて、市政運営に取り組んでまいります。
　あわせて、日本が人口の減少と偏在に直面している中で、松本市が将来にわたり社会・経済・文化の中核都市であり続けるために、若い世代が「家庭を築く希望」を実現することを最重要課題に位置付け、包括的な政策を実施してまいります。
　そして、基本構想２０３０に掲げる「三ガク都に象徴される松本らしさを『シンカ』させる」取組みに磨きをかけるため、市民ニーズの変化や生成ＡＩに代表される技術革新に機動的かつ弾力的に対応してまいります。
　いま私たちが直面する状況に鑑みれば、「現状維持は即ち後退」であります。この認識を市役所全体で共有し、「一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまち」に向けて、未来志向の投資と財政の持続可能性を両立する予算編成を行ってまいります。

　次に、第二地区の防災緑地と相澤東病院の移転新築計画について申し上げます。
　おととし７月に、社会医療法人財団慈泉会から、相澤東病院を移転新築するために、「第二地区防災緑地」の市有地と慈泉会の所有地を交換していただけないかという要望があり、地域の同意を得ることを前提に、松本市が慈泉会と第二地区の町会役員の皆さんを仲立ちする形で協議を続けてまいりました。
　しかし、今年の夏以降も協議の進展は見られず、第二地区の皆さんから「松本市としての考えを聞きたい」という声が多く寄せられたことから、先月２回にわたって松本市による住民説明会を開きました。
　この中では、慈泉会側の提案を踏まえ、住民自治の観点から見た暮らしへの影響、防災の観点から見た代替地との比較、地域医療の観点から見た新しい相澤東病院の必要性、交通の観点から見た周辺道路の整備予定について、それぞれ松本市の見解を説明しました。
　これに対し、参加者の皆さんからは、「現在の防災緑地に新病院を建設することは、土地の有効活用が図られて、多くの人に恩恵をもたらす。」と提案を評価する意見が出た一方で、「現在の場所と代替予定地は接する道路や立地条件が同等でない。」「代替予定地に向かう際の安全面に不安がある。」といった疑問や懸念の声が出されました。
　松本市としては、第二地区の皆さんの同意を前提に、引き続き丁寧

な説明を重ねて理解を広げることに努めるとともに、地域医療の充実という観点から広く市民の皆さんの意見も汲み取り、結論を出していきたいと考えています。

次に、フランスの世界遺産・シャンボール城と松本城の交流事業について申し上げます。

ともに美しい自然に囲まれた場所に１６世紀に建造された２つの城は、時代を色濃く象徴する建築様式が現存しているという共通の価値を有していることを相互に確認し、今年４月に姉妹城の提携に関する覚書を締結しました。

覚書では、この価値ある歴史文化を、互いに守り続けていくため、友好関係の強化と観光の活性化、クロスプロモーションの推進、保存ノウハウの共有、現代美術などの共同プロジェクト、サービス向上と人材育成という、５つの項目について協力していくことを確認しています。

そして、姉妹城提携に基づく初めての取組みとして、明日、文化の日から始まる「国宝松本城ウィーク」で、太鼓門特別公開に併せて「シャンボール城展」を開催します。２つの城の特徴をパネルや動画で紹介するほか、２つの城が浮かび上がる提携記念のクリアファイルやシャンボール城でしか手に入らないグッズの販売を行います。あわせて、双方の公式インスタグラムを活用したクロスプロモーションを始め、国内外のフォロワーに更なる魅力を発信してまいります。

山崎貴監督作品「ゴジラ－０．０」のタイアップ企画について申し上げます。

松本市出身の山崎貴監督がアカデミー賞で視覚効果賞を受賞した「ゴジラ－１．０」から３年、明日から再びの山崎貴監督作品となる「ゴジラ－０．０」が公開されます。

この映画では、松本市もロケ地の１つとなっていることから、松本観光コンベンション協会と連携して、様々なタイアップ企画を実施します。

松本市における企画としては、市立博物館で、ゴジラの立像や映画で使用された衣装、関連するパネルの展示や、コラボレーション商品の販売を予定しています。

このほか、松本市をはじめ茨城県・滋賀県・京都府舞鶴市のロケ地４か所でスタンプラリーを実施することになっています。

松本駅の東西自由通路には、庄内地区の並柳の住民グループが製作した高さ３．５メートルのゴジラ像も設置され、撮影スポットとなっ

ています。最新作公開とタイアップ企画を通じて、松本市がゴジラと縁（ゆかり）の深い街としても盛り上がる仕掛けを展開してまいります。

それでは、ただいま上程された議案について、説明申し上げます。提案した議案は、和解１件であります。

これは、今年７月に相手方車両が市道白骨１号線上を通行していた際に、道路舗装が陥没したことによって右側前輪及び車体下部などを損傷した事故について、相手方と和解しようとするものです。

そのほか、議案以外のものとして、市長の専決処分事項の指定にかかわる報告３件を報告しています。

以上、提案しました議案等について説明申し上げました。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

（以　上）